

さらに、本港をフィールドとした民間事業者による洋上風力の余剰電力を活用した水素サプライチェーンに関する調査や、地元自治体による再生可能エネルギーの循環利用の検討が進められています。

港湾管理者としては、このような民間事業者や地元自治体が進めている低炭素・脱炭素社会の実現に向けた取り組みに協力していくとともに、本港におけるカーボンニュートラルポートの形成に向けた検討を進めていきます。



取扱貨物量増加に向けて

東地区国際物流ターミナル整備事業着工 “着工式典は中止に”

令和3年12月、本港では20年ぶりとなる新たな岸壁の整備が着工しました。この岸壁の整備は、国直轄事業として実施するものであり、現地では鋼管矢板を打ち込む作業を開始しました。



整備状況(北海道開発局提供)

今後、岸壁整備に続き、背後用地の造成や泊地の浚渫などが行われ、取扱貨物量増加に繋がることが期待し、令和8年度の供用開始を目指します。

なお、本年1月に「東地区国際物流ターミナル整備事業着工式典」を来賓や関係者の皆様が出席のもと開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、誠に残念ではありますが中止としました。

立地企業増加“背後地域の開発が順調”

最近、本港の背後地域では大規模な物流センターやバイオマス発電所の建設などが進んでいます。

そのため、石狩湾新港地域の土地開発や分譲を行う石狩開発株式会社では、令和4年4月より新たな分譲用地の販売を開始します。

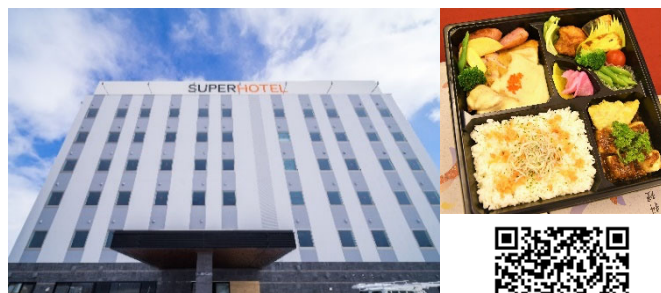
今後も立地企業の増加により地域が活気付くことや、港湾を利用する企業が進出し、取扱貨物量の増加に繋がることが期待されます。

石狩開発株式会社 <http://www.ishikari-dev.co.jp>

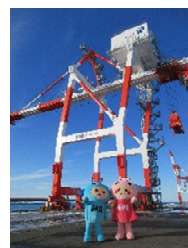


石狩湾新港地域初となるビジネスホテルが開業して2年が経ちました。スーパーホテル石狩では、天然温泉「花畔の湯」をはじめ、朝食ビュッフェやウエルカムドリンクバーなどが大変好評となっています。

さらに満足度が高く“知る人ぞ知る”と言われている、夕食付きプランで提供される「お弁当」が人気です。近隣のサテライト石狩内の食堂が提供しているこのお弁当は、地元産の季節の野菜や魚などを使い、和洋中を取り入れた内容が日替わりとなっており、特にボリューム満点の「デラックス弁当プラン」は、連泊する方々から飽きることが無くとても美味しいと評判です。出張の際にドリンクバーとお弁当で舌鼓という安らぎの時間を過ごしては如何でしょうか。



(右上)夕食付きプランの「デラックス弁当」
詳細についてはQRコードを参照 →



石狩市公認キャラクターさけ太郎・さけ子

今後もコロナ禍の状況を注視し、時代に即した様々な機会をとらえて皆様に情報をお届けしますので、引き続き「石狩湾新港」をよろしくお願ひします！

MARINE PRESS

ISHIKARI BAY NEW PORT NORTHERN PORT DAZZLING THE WORLD FROM ISHIKARI

令和3年「外国貿易額」過去最高を更新

2022 3
vol. 55

石狩湾新港管理組合
石狩湾新港外貨物利用促進協議会
北海道石狩市新港南2丁目725-1
Tel 0133-64-6661 Fax 0133-64-6666
<http://www.ishikari-bay-newport.jp>

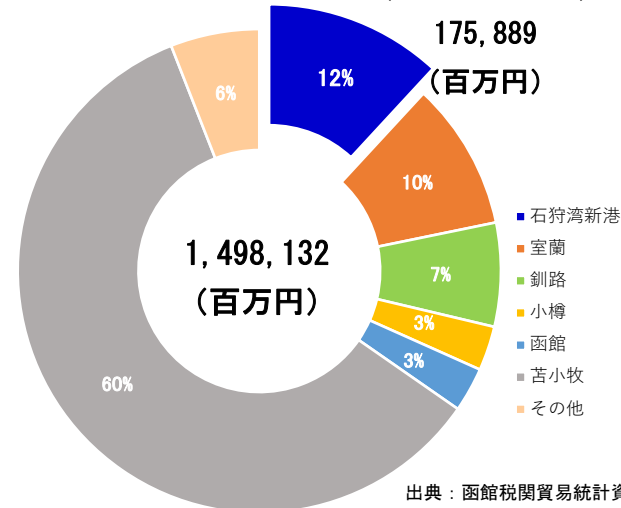
令和3年外国貿易概況

輸出・輸入ともに最高額

石狩湾新港の令和3年外国貿易額は、小樽税関支署石狩出張所によると、輸出額が293億5,953万円、輸入額が1,465億2,969万円、総額1,758億8,922万円となり、前年と比較して約20%伸びたことに加え、輸出は平成20年以来13年ぶり、輸入は平成30年以来3年ぶりに最高額を記録しました。

北海道全体では、輸出額が3,104億1,800万円、

令和3年外国貿易額（北海道全体）

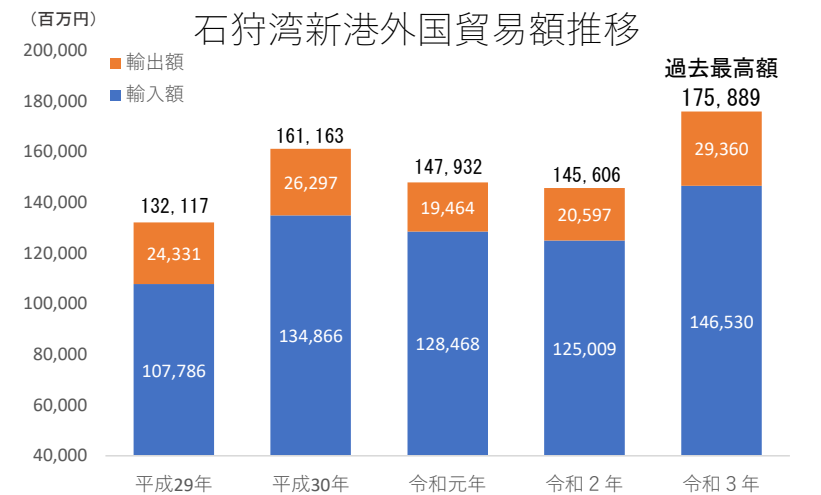


出典：函館税関貿易統計資料

令和3年取扱貨物量

取扱貨物量概況

石狩湾新港の令和3年取扱貨物量は、全体として6,232,290トンとなりました。その内訳としては輸出が330,477トン、輸入が3,739,879トン、外国貿易合計で4,070,356トン、続いて移出が230,441トン、移入が1,931,493トン、内国貿易合計で2,161,934トンとなっており、全体の対前年比は92.5%でした。



出典：函館税関貿易統計資料

輸入額が1兆1,877億1,400万円、総額1兆4,981億3,200万円となり、前年と比較して約35%伸びています。このうち、本港が占める割合は約12%で、苫小牧港に次いで2番目に大きい割合となっています。

本港の輸出入別の特徴として、輸出は「金属鉱及びくず」や「魚介類及び同調製品」などが増加し、前年比約42%の伸びを記録しており、2年連続して前年を上回りました。一方、輸入は「天然ガス及び製造ガス」、「魚介類及び同調製品」、「石油及び同製品」などが増加し、前年比約17%の伸びを記録しており、3年ぶりに増加に転じました。

2021年(令和3年)の取扱貨物量

種別	数量	対前年比
輸出	33万477トン	100.7%
輸入	373万9,879トン	90.0%
移出	23万441トン	80.3%
移入	193万1,493トン	98.2%
合計	623万2,290トン	92.5%

輸移出入別の動向としては、輸出では主要貨物の金属くずが東南アジアなどに向けて堅調に推移し 212,960 トン(対前年比 101.1%)となったほか、水産品が 33,054 トンで対前年比 159.4%と伸びており、特に中国向けのホタテが伸びをけん引しています。

輸入では主要貨物であるLNG(液化天然ガス)が、発電設備の定期事業者検査に伴うLNG船の入港減少により、2,533,500 トン(対前年比 89.4%)となったほか、木材チップが紙製品の減産に伴い、655,810 トン(対前年比 87.3%)となりました。

一方、移出ではLNGが出荷施設のメンテナンスなどに伴い減少し、151,011 トン(対前年比 85%)となり、移入では砂利・砂が 763,405 トン(対前年比 100.3%)、灯油などその他の石油が 352,357 トン(対前年比 102.6%)、LPG(液化石油ガス)が 277,589 トン(対前年比 105.8%)となっています。

外貿コンテナ取扱個数

次に外貿コンテナですが、輸出は 28,017TEU、輸入は 28,625TEU、合計で 56,642TEUとなり、過去 2 番目の取扱個数でした。

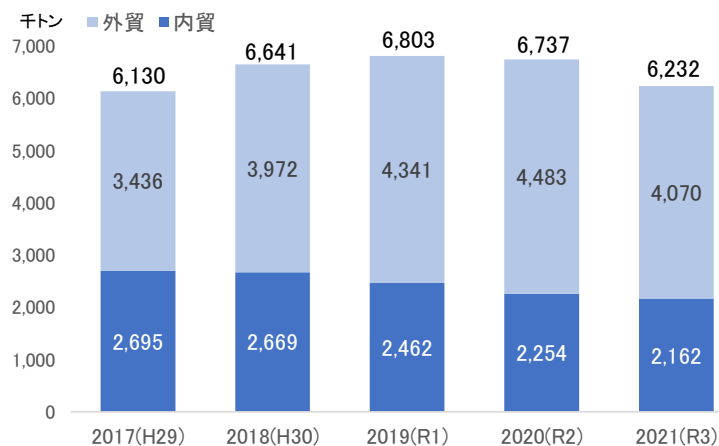
主な動向として輸出の上位品目では、ホタテをはじめとした水産品が 2,717TEU(対前年比 156%)と増加しましたが、再利用資材や自動車部品は前年を下回りました。

輸入の上位品目では、建築資材をはじめとした木製品が 7,416TEU(対前年比 129%)と増加しましたが、家具装備品やその他日用品は前年を下回りました。

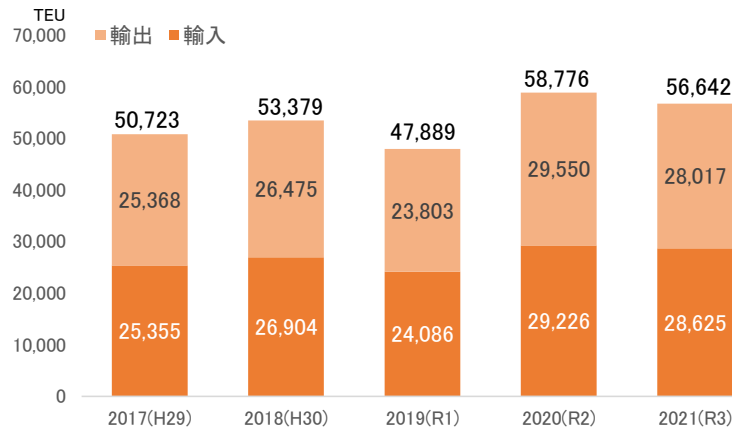


金属くずが取り扱われている東地区

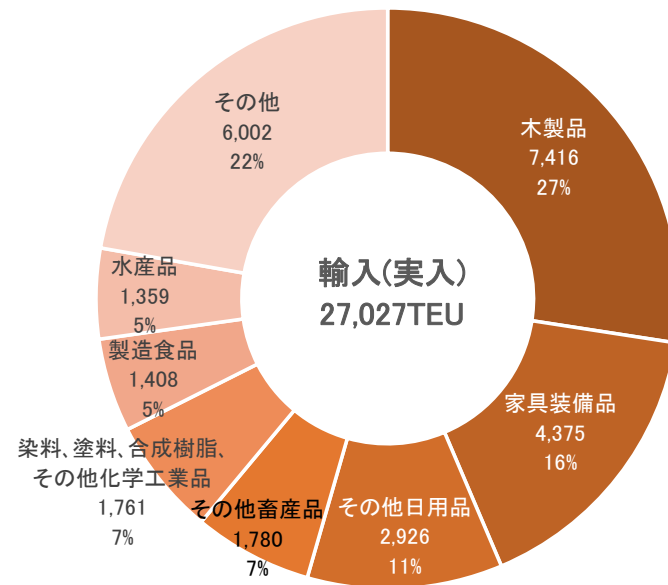
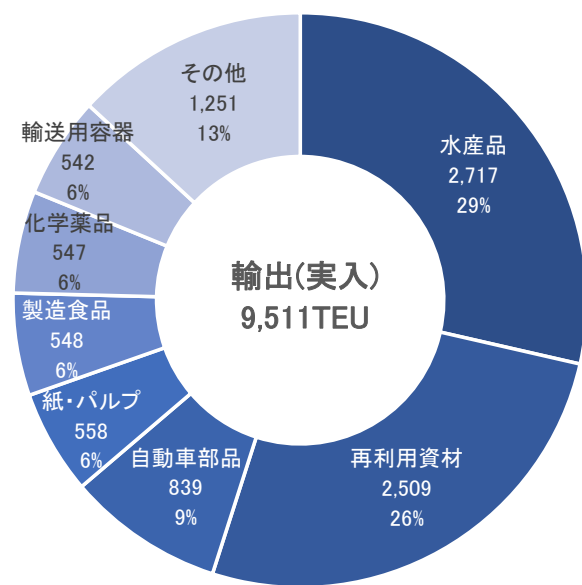
取扱貨物量5年間の推移



外貿コンテナ取扱個数5年間の推移



2021年(令和3年)外貿コンテナ貨物品目構成 速報値(単位:TEU)



脱炭素社会の実現に向けて

2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しており、水素・燃料アンモニアなどの新エネルギーや、太陽光・風力・バイオマスなどの再生可能エネルギーへの注目が高まっています。

今回は、石狩湾新港や背後地域の再生可能エネルギーの現状、取り組みについてご紹介します。

はじめに

本港は、日本海に臨む石狩湾沿岸のほぼ中央に位置し、北海道経済の中心地である札幌圏の海の玄関となっています。本港背後の工業流通団地「石狩湾新港地域」には、700社を超える多種多様な分野の企業が集積し、北海道経済と道民生活を支える産業流通拠点です。

北海道を支えるエネルギー供給拠点

本港中央地区は、エネルギー関連企業が集積し、札幌圏にLPGや灯油、軽油、ガソリンを供給しているほか、北海道で唯一のLNG輸入基地やLNG火力発電所が立地するなど、北海道を支えるエネルギー供給拠点として重要な役割を担っています。さらに港湾区域内の「再生可能エネルギー源を利活用する区域」では、民間事業者による洋上風力発電所が建設中であり、その役割はますます高まっています。

多様なエネルギーが集積

近年、新港地域では良好な風況や広大な土地を有する恵まれた環境を活かして、太陽光や風力、バイオマスなどの再生可能エネルギーの導入が進んでいます。



洋上風力発電イメージ図(石狩湾新港管理組作成)

また、地元自治体の石狩市では、同地域内の一部のエリアに企業の電力需要に対し、100%再エネでの供給を目指す「再エネ100%エリア」を設定するなど、再生可能エネルギーのさらなる導入を推進しています。

カーボンニュートラルレポートの形成に向けて

港湾は、わが国における貿易量の99.6%を扱い、港湾・臨海部には製鉄・発電・化学などの産業の多くが立地し、そのCO2排出量は国全体の約6割を占めています。

そのため、国土交通省では水素・燃料アンモニア等の輸入を可能とする受入環境の整備や、事業者間連携による水素の需要創出・供給拡大等によりカーボンニュートラルレポートを形成し、脱炭素社会の実現に貢献することとしています。

新港地域には様々な発電施設の立地が進んでおり、国内有数の再生可能エネルギーの生産地となることが期待されています。



新港地域内の風力発電(東急不動産株式会社提供)



建設中のバイオマス発電所(石狩バイオエナジー合同会社提供)